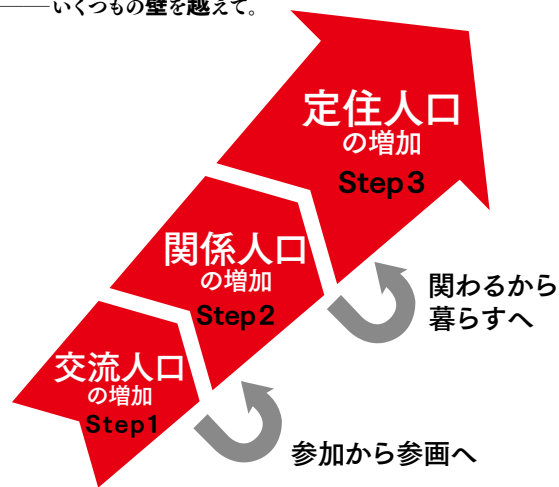




過疎地域に指定され財政的支援を受けている福智町では激減を経た人口減少が続いており、新過疎法の制定に伴って現在は指定除外対象となっています。そこで10月に黒土町長が総務省を訪ねて陳情。これを受け武田大臣は、地域の実情を鑑みた厳正な審査の必要性を示しました。

“その先へ——いくつもの壁を越えて。”

“地域資源と関係人口の力を相乗させた取り組みに期待。”



いたものが地方へと分散できる可能性が広がりました。感染対策に伴い、人々の意識や行動を変えざるを得ない今、地方が活力を獲得していける機会が到来しています。「地方への流れの展開をさらに加速するため、総務省では、超スマート社会である『Society 5.0』の実現に向けた施策を進め、その基盤と

コロナの影響下でデジタル化が加速する国内。社会観や価値観がめまぐるしく変わる中、まちづくりの視点やあり方が問われています。

その先を見据えた「新しい自治」

武田良太総務大臣インタビュー

多くの地方自治体が財政難にあえいでいる一方、首都圏への一極集中と地方との格差に歯止めがかからない状況が続いています。我が国の地方自治の舵取りを担う武田良太総務大臣は「福智町を含め、財政難に苦

我が国の地方自治をリードしながら支え、郷土の歩みと現状を知る武田総務大臣。その先を見据える「新しい自治」の視点から、山積する課題を抱える福智町が地方創生を成し遂げるヒントを探りました。



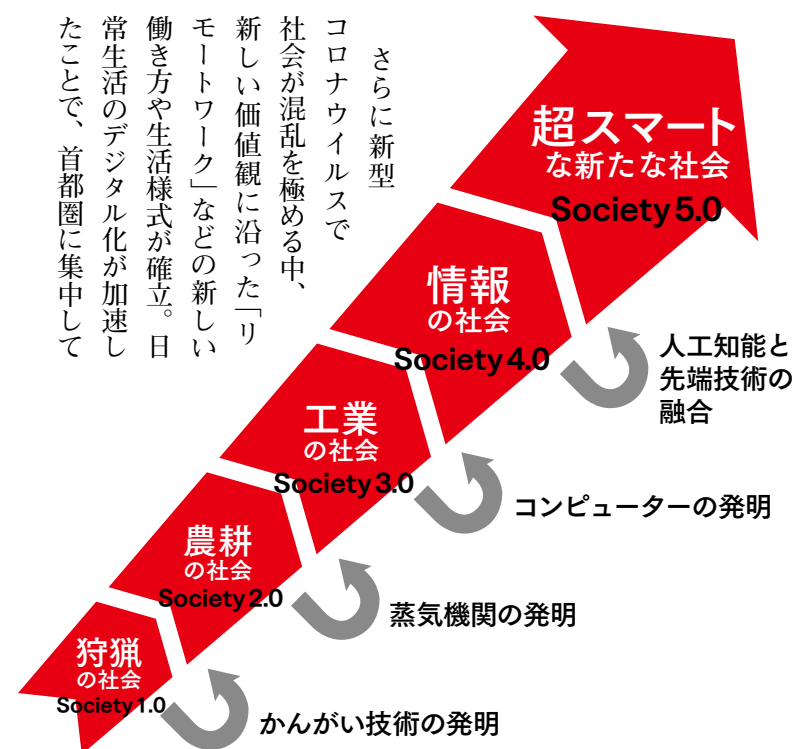
● 武田良太（たけだ・りょうた）
福智町出身・在住の52歳。早稲田大学大学院修了後、衆議院議員秘書を経て、平成15年の衆議院選挙で福岡11区から初当選し、以降6回連続当選。防衛副大臣、国家公安委員会委員長・行政改革担当大臣・防災担当大臣を歴任し、令和2年9月に、総務大臣に就任。

“超スマート社会が不可能を可能にする。”

しむ市町村の多くは、ふるさとを盛り上げ、自分たちの足で生きていこうと日々奮闘されています。しかし、人材、モノ、

機能、その全てが東京に集中する社会問題は、いまだ解決できていません」と厳しい現状を受け止めています。

さらに新型コロナウイルスで社会が混乱を極める中、新しい価値観に沿った「リモートワーク」などの新しい働き方や生活様式が確立。日常生活のデジタル化が加速したことで、首都圏に集中して



“まさに地域の自治力が試される時代だと言える。”



なる『5G』の整備を令和5年をめどに推進しています」と武田大臣は、次代に向けた施策に力を込めます。

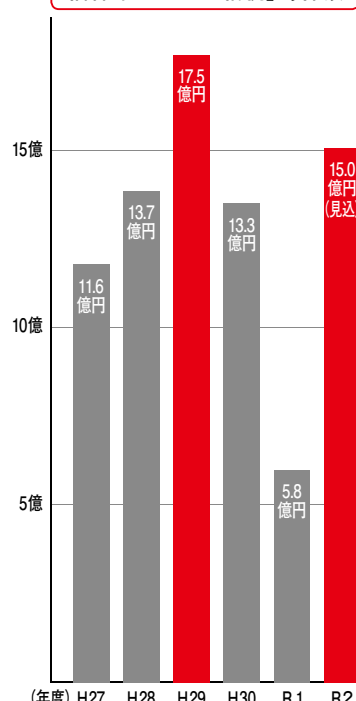
たゆまぬ挑戦の先に地方創生の鍵がある

炭鉱という基幹産業を失った後、新たな活路を求めて奔走し続ける福智町。安定した財源ではありませんが、今や町財政の命綱といっても過言ではない「ふるさと納税」も

生き残りをかけた施策の一つです。特産品開発と生産者との協働による地域ブランド化へのチャレンジは、6年間で77億円以上の寄付を生みまし

た。財源確保と魅力発信、そして町を応援する関係人口増加の全てを同時に可能にする「ふるさと納税」の深化に努めながら、まちづくりへのあくなき挑戦を続けています。「福智町は創意工夫で財源を確保し、地域資源と関係人口の力を相乗させた取り組みでさらなる活路を拓こうとしている。このコロナ禍で我々は、新たな生活様式を受け入れつつ、困難を克服するための先端技術の進化を加速させ

福智町「ふるさと納税」寄付額



ました。一方で、医療・福祉・衛生、働き方、暮らし方などそれぞれの地域で何が必要なのかを見つめ直しました。これからは人工知能（AI）や社会変革（イノベーション）を通じた地域の課題解決や新たな価値の創造が可能になっていくでしょう」と武田大臣は「新しい自治」を展望しています。「まさに地域の自治力が試される時代だと言える」。今が大きな変革期にあることを捉えている武田総務大臣。「地域による地域のための、地域力を生かすビジョンで、その先を見据えながら、目の前の壁を乗り越えていく。そのたゆまぬ挑戦の先にこそ地方創生への鍵があるものと信じています」と郷土への希望を示しました。